

第4回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

開会挨拶

里山シンポジウム実行委員会 代表 金親博榮



風薫る5月、太平洋からの心地よい風が吹き抜けるここ東金市、城西国際大学に、たくさんの方々にお集まりいただき本当にありがとうございます。

このシンポジウムは、第54回全国植樹祭の翌年、市民の発意により、第1回を木更津市で開催しました。その後第2回は我孫子市、昨年の第3回は八千代市でそれぞれ開催してまいりました。各々、里山に活動の場を持つ市民団体が、企画運営を行い、千葉県、地元自治体と大学関係者などのご支援をいただくという形です。

今年は、これに加え、農林水産省から、国民生活にとっても欠くことができない森林の大切さ、地球温暖化防止にかかる森林吸収源

対策など、全国キャラバンの一環としてご参加いただく事となりました。

これまで毎年共通のテーマを「里山に託す私たちの未来」として、今年は「里山となりわい」というテーマで、13の分科会が県内各地で開かれます。なりわいの衰退と、里山の荒廃、これに軌を同じくする刹那的な行動様式が、人々の自立した循環的な営みを断ち切り、孤独な個人を増やすという大きな社会的な病にも繋がっています。人を含む多くの生き物を育む里山の大切さが再認識される時代となったのです。

これまでの個々の市民の連携と協力が、実行委員会という組織活動となり、成果をあげたと言える事例を発表できるようになりました。

この観点から、本日は、東金市に所縁のある小松光一先生を中心として、基調講演、パネルディスカッションにより、みんなでこの問題を考えることとします。

堂本知事、志賀市長、水田学長、ご後援、ご協力下さった団体、個人など多くの方々のお力添えで、本日第4回のシンポジウムが開催できたことに感謝いたします。最後になりましたがご参集のみなさま方の更なるご活躍を祈念し、ちばの里山が元気を取り戻すための協力の輪が一層広がることを願って、里山シンポジウム実行委員会代表としての挨拶といたします。